



安全上の注意

取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

- 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
絵表示の例

警告

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
メタルス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付け
本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口(給気口)により十分給気される配慮をすること

注意

- 取り扱いは必ず厚手の手袋をすること
ファンや部品の取り付けは確実にすること
レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります

取り付け上のお願

下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
・大工工事【設置のための下地工事等】
・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】
・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】

ダクトの不燃処理について
・ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」、「検査要領書」に従ってください。
調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。また調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。

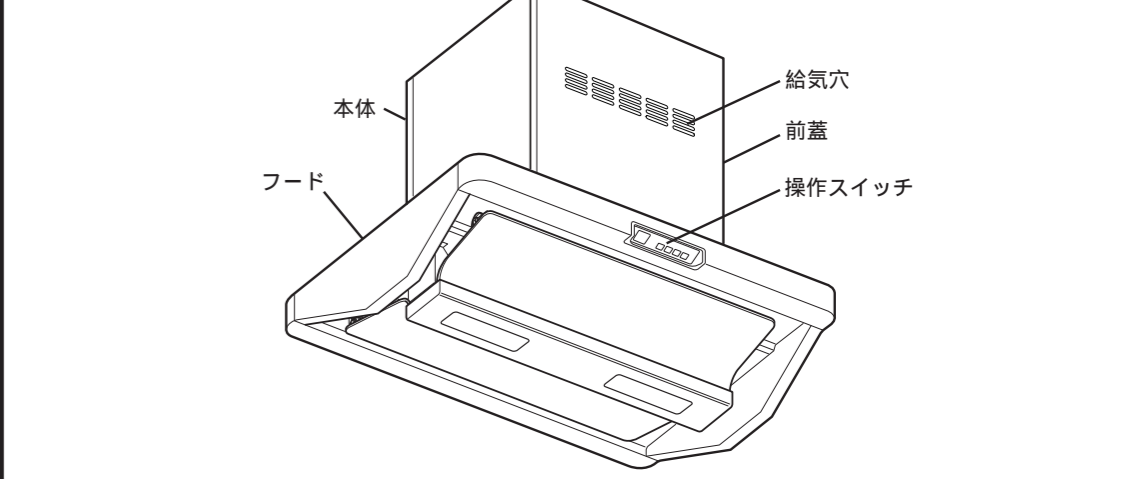
製品は調理機器の真上に取り付けてください。
なお、製品取付高さは、アクアスリットフィルタの下端が調理機器の真上85cm以上になるようにしてください。

レンジフード下部には、沸湯器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向50cm以上離して取り付けしてください。
沸湯器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
電源は専用のコンセントおよびブレーカーを設けてください。
製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
部屋の中央で調理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

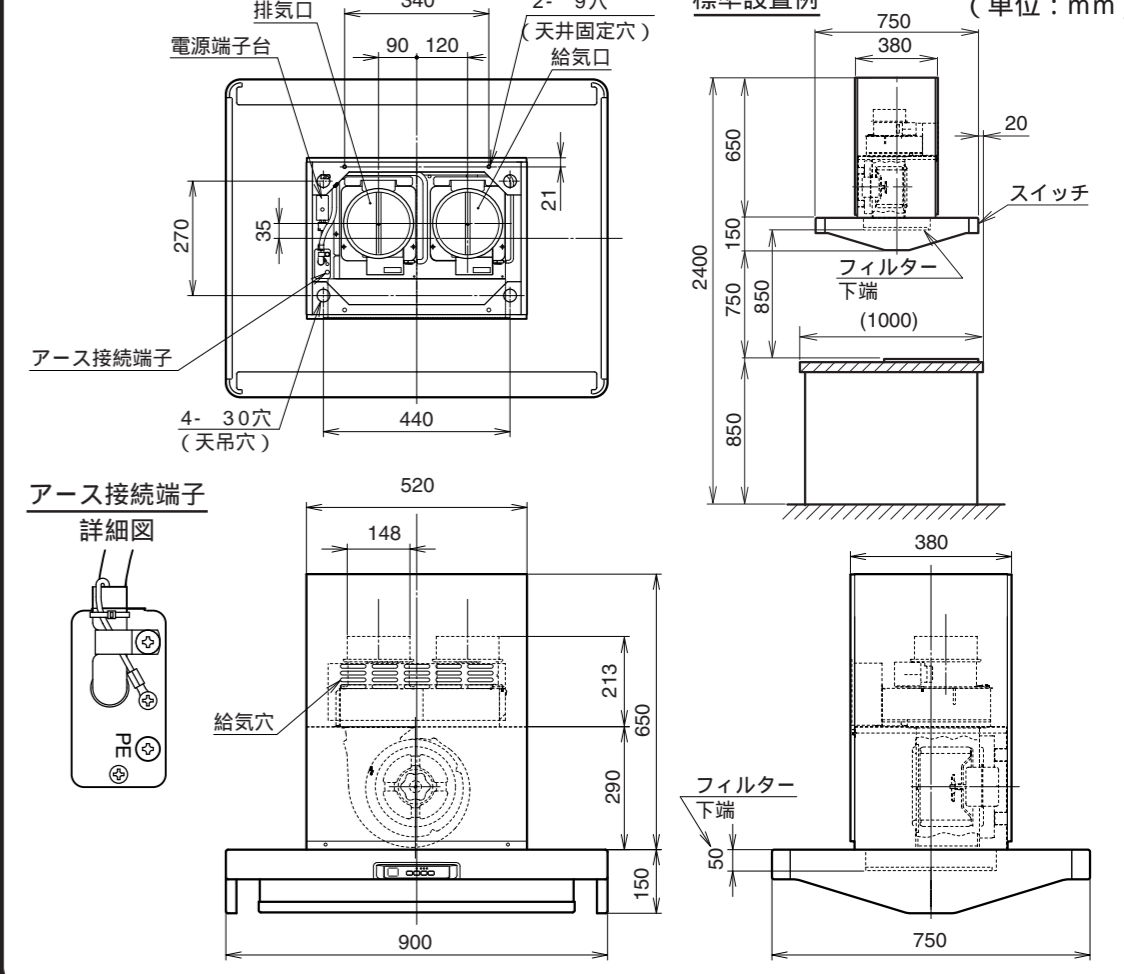
取り付け前の調査と準備

取り付け前の調査と準備
注意
レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります
取付位置の強度確認
製品を支える強さが必要です。
1 天井面への穴あけ
2 吊りボルトの取り付け
3 排気ダクトの取り出し
4 標準取付寸法
5 電源線・ブレーカー

各部のなまえ



製品寸法図



付属品

- ワッシャー(4個) (外径45, 内径10.2)
Uワッシャー(4個)
トラスねじ(M4)(4本)
トラスねじ(M5)(4本)
トラスタッピンねじ(2本) (4.1 x 3.0)
ソフトテープ(2個)
フード引掛金具(1個)
フード固定金具(1個)

取り付けかた

1. 本体の準備

注意

- 取り扱いは必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
1 付属品を確認します。
2 4本の吊りボルトに図1-2の要領で、六角ナット(取付作業側手配)・ワッシャー・スプリングワッシャーをセットしてください。
3 本体前後の蓋をはずします。
4 排気口・給気口にソフトテープを貼り付けます。

- 吊りボルトに固定します。
3 本体を天井面に固定します。
4 接続部をテーピングします。
排気口設置面の漏れ確認のお願い
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面(フード天面等)が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。

3. フードの取り付け

- 1 フード引掛金具とフード引掛機を取り付けます。
2 本体にフードを取り付けます。
3 フードを右へ寄せます。

- 4 フード前面を固定します。
5 フード後面を固定します。
6 コネクターを接続します。

コネクターの接続について
コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。

5. 組み立て

注意

- 白色の電線がW側に入るように、電線に芯線を2本同時に差し込み、表示棒が下がっていることを確認してください。
ワイヤークランプで電線を固定します。
ストリップ長さが適切でない場合や表示棒が下がっていない場合は、端子部の異常発熱の原因になり危険ですので、ストリップ長さを再度確認の上、結線をやり直してください。

4. 電気配線

警告

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
交流100V以外では使用しないこと
配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
アースを確実に取り付けること
必ずアース(D種接地工事)をしてください。アース線は取付作業側にて手配してください。

6. 試運転

注意

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
ブレーカーを「入」にします。各操作スイッチを押し、運転状態を確認してください。
運転時、各連動の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。

7. お客様への説明

取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。